

教育委員会だより～^{まなぶ}学～9月号

電子図書館の学校連携について

文化課図書係

電子図書館の学校連携

知立市図書館では新型コロナウイルスのまん延を契機に、令和5年2月に電子図書館サービスを始めました。市内在住の人で同館の貸出券を持っている人であれば、インターネット端末から電子書籍が読めるというサービスです。

このほど、市内の小中学校の児童・生徒全員と教員を対象に電子図書館のIDを一斉配布し、令和6年7月から1人1台端末などから利用できるようになりました。導入にあたっては、小学校低学年になるほどIDやパスワードの管理が難しいこともあり、学校現場の教員の方々にはご苦勞をおかけしました。

どんな本が読める？ 反響は？

児童・生徒たちが利用できる電子図書館は、一般の利用者向けと同じです。このため、小学生向け、中学生向けの作品ジャンルのページを作りました。「名探偵コナン学習まんが」、「おぼけずかん」、「学校では教えてくれない大切なこと」などは人気のシリーズです。また、「学研の図鑑」シリーズや宮沢賢治などの名作がそろう青空文庫などは、何人でも同時に読むことができますので、ぜひ学校でご活用いただきたいです。その他、多言語の作品を集めた world languages のページでは、ハリーポッターや人気マンガの英語版、その他ポルトガル語や様々な言語の本があります。教員や保護者からは、普段、図書館へ足を運ぶことができなかった子どもたちが喜んでいてという声をいただいています。

電子図書館の課題

知立市の電子書籍のコンテンツ数は3,323点あります（8月現在。雑誌を除く）。これに対し、知立市図書館が所蔵する紙の図書は約23万冊ですから、電子図書の割合としては1.3%ほどにすぎません。電子図書のニーズは今後も高まっていくでしょうからコンテンツの充実が課題となっています。

学校現場では、電子図書をいつ、どのような時間帯に読んでいいか、などルール化を検討しなければいけないといった声もあります。しかしながら、子どもたちが気軽に本に触れる機会の増加という面で電子図書館というツールが有効であることは間違いありません。電子図書館をきっかけにして、子どもたちが本との出会いを楽しみ、各学校の図書室や知立市図書館のブックトークなどのサービスも併せてご利用いただけたらと願う次第です。